

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科  
 2026 年度春学期入学試験  
 アカウンティングスクール（会計専門職専攻）B方式（筆記試験型）入学試験  
 筆記試験問題

財 務 会 計 解 答 例

**問題 1** (配点 : 15 点)

本問では、取引内容を理解し、適切な仕訳を行うことができるかを問うた。

	借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額
(1)	売 掛 金	600,000	売 上	480,000
			返 金 負 債	120,000
(2)	普 通 預 金	320,000	受 取 配 当 金	400,000
	仮 払 法 人 税 等	80,000		
(3)	退 職 給 付 引 当 金	1,500,000	当 座 預 金	1,500,000
(4)	車 両 運 搬 具	2,400,000	営 業 外 支 払 手 形	2,496,000
	前 払 利 息	96,000		
(5)	備 品	800,000	当 座 預 金	1,000,000
	研 究 開 発 費	3,200,000	未 払 金	3,000,000

**問題 2** (配点 : 15 点)

本問では、決算整理事項等について適切な会計処理を行い、精算表を作成できるかを問うた。

**精 算 表**

(単位 : 円)

勘 定 科 目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	360,000		1,500				361,500	
当 座 預 金	840,000						840,000	
受 取 手 形	300,000						300,000	
売 掛 金	500,000						500,000	
繰 越 商 品	250,000		350,000	250,000			350,000	
仮 払 金	480,000			360,000				
				120,000				
機 械 装 置	1,500,000			500,000			1,000,000	
土 地	1,340,000						1,340,000	
そ の 他 有 価 証 券	500,000		30,000	20,000			510,000	
支 払 手 形		260,000						260,000
買 掛 金		200,000		302,000				502,000
貸 倒 引 当 金		7,000		10,000				19,000
				2,000				
未 払 金		100,000						100,000
資 本 金		3,600,000						3,600,000
利 益 準 備 金		80,000						80,000
繰 越 利 益 剰 余 金		320,500						320,500
売 上		3,932,500				3,932,500		
国 庫 補 助 金 受 贈 益		500,000				500,000		
仕 入	1,292,000		302,000	350,000	1,494,000			
			250,000					
給 料	930,000				930,000			
支 払 家 賃	540,000				540,000			
広 告 宣 伝 費	120,000				120,000			
水 道 光 熱 費	48,000				48,000			
	9,000,000	9,000,000						
固 定 資 産 圧 縮 損			500,000		500,000			
ソ フ ト ウ ェ ア 仮 勘 定			360,000				360,000	
支 払 リ ー ス 料			40,000		40,000			
前 払 リ ー ス 料			80,000				80,000	
為 替 差 損 益				1,500		1,500		
貸 倒 引 当 金 繰 入			10,000		12,000			
			2,000					
減 価 償 却 費			100,000		100,000			
機 械 装 置 減 価 償 却 累 計 額				100,000				100,000
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金			14,000	21,000				7,000
繰 延 税 金 負 債				9,000				9,000
繰 延 税 金 資 産			6,000				6,000	
未 払 法 人 税 等				195,000				195,000
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税			195,000		195,000			
当 期 純 利 益					455,000			455,000
			2,240,500	2,240,500	4,434,000	4,434,000	5,647,500	5,647,500

**問題 3** (配点 : 10 点)

本問では、商品の期末評価では数量と単価について記録と事実を確認することの内容を問うた。

<p>まず、商品有高帳に基づく帳簿棚卸数量と実際に確認した実地棚卸数量との間に数量不足がないかどうかを確認する。このとき、数量不足が確認された場合、不足による損失を棚卸減耗損として処理する。なお、棚卸減耗損に原価性がある場合には、売上原価の内訳科目または販売費及び一般管理費の区分に記載し、原価性がない場合には、営業外費用または特別損失の区分に記載する。</p> <p>つぎに、実地棚卸数量について、商品の価値が下落していないかどうかを確認する。このとき、商品の正味売却価額が取得原価よりも下回っている場合には、正味売却価額まで商品の帳簿価額を引き下げ、その下落分を商品評価損として処理する。なお、商品評価損は、原則として売上原価の内訳科目として記載するが、臨時の事象に起因し、かつ金額多額の場合には特別損失の区分に記載する。</p>

**問題 4** (配点 : 10 点)

本問では、報告式の損益計算書における3つの計算区分に関する内容を問うた。

<p>損益計算書は、営業損益計算の区分、経常損益計算の区分および純損益計算の区分の3つに区分される。営業損益計算の区分では、主目的たる活動から生じた収益とこれに対応する費用を記載し、営業損益を算定する。すなわち、営業損益計算の区分では、売上高から売上原価を控除して売上総利益を算定し、これから販売費及び一般管理費を控除して営業利益を算定する。経常損益計算の区分では、主目的たる活動以外から生じた経常的な収益と費用が記載され、経常利益を算定する。すなわち、営業損益から営業外収益と営業外費用を加減して経常損益を算定する。純損益計算の区分では、臨時的な利益と損失を記載し、当期純損益を算定する。すなわち、経常損益に特別利益と特別損失を加減して税引前当期純損益を算定し、これから法人税等を控除して当期純損益を算定する。</p>

管 理 会 計 解 答 例

**問題 5**

本問では、材料費の費目別計算ができるかを問うた。

次の取引に基づいて、材料勘定の（ ）に適切な金額を記入しなさい。なお、実際消費量は継続記録法、消費価格は先入先出法、予定消費価格は@800円で計算すること。また、不要な（ ）には、「 —— 」を記入すること。(10点)

- 9月1日 先月繰越 A材料300kg @800円  
 5日 A材料500kgを360,000円で掛購入した。  
 10日 A材料400kgを製造指図書No.1に出庫した。  
 20日 A材料200kgを間接材料として出庫した。  
 30日 A材料の材料消費価格差異を計上した。  
 " A材料の月末実地棚卸量は180kgであり、棚卸減耗損を計上した。

〔解答欄〕

材 料			(単位：円)
9/1	先月繰越	(240,000 )	
5	買掛金	(360,000 )	
30	材料消費価格差異	(24,000 )	
		(624,000 )	
9/10	仕掛品	(320,000 )	
20	製造間接費	(160,000 )	
30	材料消費価格差異	( —— )	
"	製造間接費	(14,400 )	
"	次月繰越	(129,600 )	
		(624,000 )	

**問題 6**

終点減損のある生産データの総合原価計算ができるかを問うた。

KG社は、単一工程単純総合原価計算によって製品製造原価の計算を行っており、月末仕掛品原価は平均法により計算している。次の〔資料〕に基づいて、月末仕掛品原価、当月完成品総合原価、および完成品製造単価を求めなさい。なお、正常減損はすべて工程の終点で発生したものであり、正常減損度外視法で計算すること。(10点)

〔資料〕

## 1. 生産データ

月初仕掛品	300個 (1/3)
当月投入量	700個
合計	1,000個
正常減損	100個
月末仕掛品	200個 (1/2)
完成品	700個

## 2. 金額データ

月初仕掛品原価	
直接材料費	33,000円
加工費	10,000円
当月製造費用	
直接材料費	67,000円
加工費	89,000円

- ・仕掛品に付記している( )内の数値は加工進捗度である。
- ・材料はすべて工程の始点で投入される。

〔解答欄〕

	月末仕掛品原価	当月完成品総合原価
直接材料費	20,000円	80,000円
加工費	11,000円	88,000円
合計	31,000円	168,000円

完成品製造単価	@	240円
---------	---	------

**問題 7**

本問では、原価計算・管理会計分野の、理論的な知識を問うた。

次の(1)～(5)の記述のうち、下線部に当てはまる最も適切な語句を語群から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。(10点)

(1) 経費は、その把握方法によりいくつかの種類に分類される。例えば、減価償却費は、\_\_\_\_\_に分類される。

語群： (A) 支払経費 (B) 月割経費 (C) 測定経費 (D) 発生経費

(2) 同一の工程で2つ以上の異種製品を製造する場合に適した総合原価計算方法は、\_\_\_\_\_である。

語群： (A) 工程別総合原価計算 (B) 組別総合原価計算 (C) 等級別総合原価計算 (D) 標準原価計算

(3) 標準原価計算の製造間接費の差異分析において、\_\_\_\_\_は、生産設備の稼働状況の良否を判定するために使われる。

語群： (A) 操業度差異 (B) 予算差異 (C) 能率差異 (D) 時間差異

(4) 原価企画において、新製品を、現在の技術レベル・生産設備・人員構成などの下で生産した場合に予想される原価のことを\_\_\_\_\_という。

語群： (A) 実際原価 (B) 目標原価 (C) 成行原価 (D) 許容原価

(5) 品質原価計算において、不良品を発見するための活動の原価のことを\_\_\_\_\_という。

語群： (A) 内部失敗原価 (B) 外部失敗原価 (C) 予防原価 (D) 評価原価

〔解答欄〕

(1)	(B)
(2)	(B)
(3)	(A)
(4)	(C)
(5)	(D)